

# さまざまな表現をする友達のいない少年の心理療法過程

—— コンピュータ、粘土、箱庭、絵画、プレイ ——

青 柳 宏

A Psychotherapeutic Process for a Boy without Friends, with Multiple Expressions  
—— Computer, Clay, Sandplay, Art, Play ——

*Hiroshi Aoyagi*

## I はじめに

子供は自分の内面を、さまざまなやり方で表現しているものである。それは、絵画であったり、箱庭や粘土であったり、詩や文章であったり、または遊びで表現されることもある。山中はそうしたCI（クライアント）の持っている限局した指向性を「窓」と呼び、CIの示す「窓」に同調し、その「窓」を通して語り合っていく必要性を述べている。<sup>4)</sup> 今回報告するY雄は、コンピュータ、粘土、箱庭、絵画、プレイとその時々に応じて多様な表現をするCIである。必要な言葉を自分で作ったり、当て字をしたりと実に表現豊かである。しかし、一貫してそこに表現されているのは「戦い」のテーマであった。「マイコン（コンピュータ）との戦い」、「箱庭での戦い」、「Thとのゲームによる戦い」と3つの異なったやり方で「戦い」を表現している。本稿では戦いが意味することと、この3つの戦いの違いや意味を考えていきたい。

## II 事例の概要

### 【クライアント】

Y雄、11歳、小学5年生男子（初診時）。

### 【主訴】

気が弱く、人に言われるとすぐ従ってしまう。友達が全くいなく、クラスでいじめられる。1日に4～5回トイレ（大便）に行く。

### 【現病歴】

小学3年生の時に、風邪で下痢腹痛があり、それ以降食べたらトイレに行くようになった。この為、クラス遠足の前の晩から眠れない。同様に運動会や、新しい学年の始まる4月に眠れないことがある。

仲間と話が合わず、Y雄が話しかけても無視される。5年生の時、4～5人にいじめられ叩かれた。その後、同級生を見ると、一緒にいる妹や母親の蔭に身を隠そうとする。仲間「チンチン出せ」と言われて出した。このエピソードがあり、親が担任に相談し、来談することになった。

### 【家族】

父親：40歳、公務員。Y雄の幼少時は接触の機会が少なかった。勤務後の付き合いで、寝顔を

見るだけのことが多かった。保育所の頃、保母のアドバイスでY雄と相撲をしようとしたが、Y雄が怖がった。田研式親子関係診断検査（児童用）では、拒否型。

母親：40歳、パート勤務。Y雄への関わり方は、過干渉、過保護の面がある。田研式親子関係診断検査（児童用）では、積極的拒否型、厳格型、溺愛型、矛盾型であった。

Y雄：11歳、小学5年生。1つのものに集中するところがあり、小1の時は暦、現在は地図。周囲と興味の対象が違い、話が合わない。性格的には、引っ込み思案と言うよりも、出たがり屋などところもある。各学年の1学期に委員に立候補しなることもあるが、2学期以降は他の子がY雄のことをわかり、推さなくなる。体操が不得意で、小学校1、2年生にも劣る。体が硬く、行動がトロイ。

妹：8歳、小学2年生。兄弟仲は良い。いつもくっついている。妹が命令し、Y雄が従う感じ。喧嘩はあまりしない。

祖父：小学3年まで同居。無口でテレビ好きのおとなしい人。Y雄は祖父にベタベタしていた。

祖母：Y雄の生まれる2～3カ月前に死亡。

### 【生育歴】

出生時体重3400g。栄養は母乳で、半分ミルク。よく泣く子であった。音に敏感で、テレビの大きい音などで泣いた。人見知りはなかった（というよりも、医者などに行く以外人前に出さなかったからかもしれない）。生後6カ月で、抱っこしてトイレでウンチをさせた。1歳の時におしめがとれた。オシッコ、ウンチを教えるのも早かった。

言葉の方は遅く、3歳児健診の時、「言葉が遅れているので話しかけるように」と言われた。わかってはいるが口に出して言わないという感じであった。健診担当者に「母親が言葉の先取りをするからではないか」と言われた（母親も当たっていると思う）。第一次反抗期は無く、おとなしくて、親の言う通りにする手の掛からない子であった。

3歳位から他の子（主に女の子、親戚の子）が遊びに来て遊ばず、1人で好きなことをしていた（本を見るとか文字を書くとか）。文字には早くから興味を持ったので、親がやらせたところもある。玩具は、本とか文字のついたブロック。外遊びは全くしなかった。

保育所に2年通う。入所した日から、なじめずに泣く。しかし、行かなければならない所へはきちんと行く子なので、休まなかった。2年目の時、保母から「自閉が掛っているのではないか」と言われ、言語治療教室へ行き、小3まで通った（自閉症ではないと言われた）。家でもあまり喋らず、目を見ないで喋るところがあった。保育所を卒園する頃から、よく喋るようになった。しかし、話のつじつまが合わなくなることがあった（現在もその傾向がある）。

小1の時、担任から「突飛なことをする」と言われた。例えば、絵の具の水をごみ箱に捨て、ごみ箱から水が出てきてもボサーとして拭きもしない等。家に入出入りする友達女の子がほとんどで、Y雄は友達の後を黙ってついて行くだけだった。小3の時は、男の子も遊びに来るようになった。担任（新米男性教諭）がY雄の相手をしてくれ、Y雄も喜んでいて、Y雄も明るくなり、のびのびしてきた。小4の頃から、クラスの男子が2つのグループに分かれ、Y雄はどうしていいかわからず、どっちつかずの状態であったが、結局Aグループについた。小5になり組替えがあり、Y雄はBグループと組が一緒になった。それでいじめられる、とY雄は考えている。

### Ⅲ 治療経過

インテーク面接は清水先生（当時室蘭工業大学）が行い、上記情報を得た。母親面接を清水先生が、Y雄の面接を筆者が行うことになった。週1回、50分の面接を計103回行った（小5の3月～中3の6月迄、3年4カ月）。全体を3期に分けて見ていくことにする。以下、治療者をTh、Y雄の発言を「」、Thの発言を〈〉で記す。

#### 第1期 マイコンとの戦いの時期（1回～39回）1年間（表1）

この時期はさらに、（1）治療者を試す時期、（2）マイコンとの戦い Part 1、（3）箱庭での戦い（前哨戦）、（4）マイコンとの戦い Part 2、の4つに分けられる。

##### （1）治療者を試す時期（1回～9回）

【第1回】母親と一緒に来談。1人になるとリラックスした感じで、箱庭、マイコン、地図に興味を示すが、「お母さんに聞いてみないと」、「先生はお母さんに話をしそうだから」、「さわると手垢が付いて先生に悪いから」と言って触れようとしない。再度促し、マイコンを使用。Thが何度か操作ミスをする、「先生でも失敗するんだね。懺悔だね」〈水をかけられるのいやだな〉「先生懺悔知っているの」と驚いた様子。家では懺悔というとお父さんに叱られると言う。「コンピュータにひらがなを出して欲しい」、「先生、他にも子どもを見ているの」、「いい部屋だね。楽しかった」と良い印象を持ったようである。時間が来ても帰ろうとせず、母親がドアをノックしてやっと帰る。{ちゃんと先生の方を向いて挨拶しなさい}と注意され、母親の横で背筋を伸ばして立っている姿が印象的であった。家では母親から厳しく注意されているようで、母親と一緒にいる時は緊張しているようである。

【第2回～第6回】すぐにマイコンを使用し、分数の計算問題を自分で出題し、自分で解き、マイコンと答えあわせをする（マイコンが先生）。全問正解100点。第3回からは1人で来る。マイコンは風邪で休み。空想の国『小海国』：火山の噴火で2つに分離。Y雄の内面で新しい変化が起こっている。面接室でも大声で歌を歌う。時間前に入室し（12回まで）、終了も遅らせ、階段まで『見送り』を求める（第1期終了まで）。家では親に反発するようになった。Y雄の秘密を打ち明けてくれたり、「先生、優しいね」、「Y雄君、明るくて元気だね」とコンタクトは良好である。第5回ではマイコンに問題を出し、マイコンをテストする。5割正解の後、5連敗。マイコンは病気。「Thは8割、Y雄は3～5割、マイコンは2割」と、マイコンの評価が低い。母親の言うことを無視するようになった。第6回ではノートにプログラムを書き、砂に埋めて『マイコンの墓』を作る。生きている時に作る墓で『生墓』。一緒にお祈りする。「Thは人に話をしそうだ」と言う一方で「Y雄のこと、皆羨ましがっているみたいだ」、「どうしてずっとできないの?」、「粘土で埴輪を作りたい」、「Y雄の為に何でもしてくれる?」と甘えや要求を表現する。

【第7回～第9回】粘土で埴輪を作り、砂に埋める。計算を間違えたら砂に埋めるという。Y雄が先生と生徒の2役を演じ、黒板に問題を出す。0点の者は「燃死生絶の刑」と言って、すごい形相で自分の腕を叩く。Thにも選択問題を出す。次の回にはY雄が先生、Thが生徒役で昔の漢字の勉強。「面接いつまでかかる?」、「どれくらいかかると思う」、「来年までかな」。治療関係については、Thへタンポポのプレゼントを持ってきたり、「家とここにいる時だけ、明るい。学校では暗い」と言う一方で「Thは反省するところがある。嘘、良い先生」、「Thは担任（良い先生）と同じくらいだから、25点」とThに対する評価は両面的であるが、面接室では自分を表現できるようになった。

表1：治療経過（1期：マイコンとの戦い）

月	回	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
クライアントの様子	緊張 要求を出す	明るく元氣 見送り、大声で歌う	明るく元氣 (家で明るい)	家でよく喋る父にムックリ	要求を出す	衝動的 ここにくと元氣 (妹とケンカ、トイレOK)	大きな船と張り合ふ	大いなる母への痛 罵下で大声、叱られる	大声 (クラスで評価)	年賀状 3人へ				
マイコン	計算 マイコンが先生	マイコン病氣 マイコンをテスト	計算	青柳借母根	マイコンとの戦い、I (Y雄の勝利) 青柳借母根自殺	プログラム 人々	マイコン初勝利	過去のマイコン マイコン勝利 Y雄勝利	マイコンとの戦い II マイコン勝利 Y雄勝利	アイコン自殺 証をする				
箱	人工芝を踏み	砂を掘る	マイコンの墓	植輪を埋める	大仏(恋電墳輪の滝登り) 大仏に砂をかける。皿	大仏の死+墓 新しい大仏(大きな口)	三人の墓 噴火怪物(大口)	マイコンの墓	森の園(植物のみ)	ジャングルで 迷う人々	戦い、アイス人滅亡 噴火、アイス人滅亡	噴火、沈没、アイス人死亡		
庭														
事	空蘭地図	小海国、噴火	運動会 ノストラダムス 先生と生徒の役、天理教	Y雄祭、世界の人Y雄	Y雄投手、TH(代打)代走	Y雄祭、世界の人Y雄	Y雄祭、世界の人Y雄	アイス人、日本人と混血	Y雄祭、世界の人Y雄	Y雄祭、世界の人Y雄	Y雄祭、世界の人Y雄	Y雄祭、世界の人Y雄		
項	祈る	祈る	Y雄(先生)、TH(生徒)	バツチン、Y雄の勝利	二人でおまいり	二人でおまいり	二人でおまいり	二人でおまいり	二人でおまいり	二人でおまいり	二人でおまいり	二人でおまいり		
ア														
レ														
イ														

学校では組体操の時、テキパキと行動できた。家では「何で、どうして」とよく喋るようになった。父親にベタベタしている。

## (2) マイコンとの戦い Part 1 (第10回～第16回)

【第10回～第12回】『埴輪の滝登り』と称し砂をかけ、埴輪は砂に埋もれてしまう。「S君に算数のテスト負けたので、100点取れるように祈る」と言う。Thが手伝い、プログラムを入力。

『マイコンとの一騎打ち』：Y雄対青柳借母根（マイコン）、1勝4分けてY雄の勝利。粘土で大仏（運動会室別奈良大仏）を作る。恐竜のような大仏（写真1）で、『天気にするドラゴン』とも言う。砂をかけ、天気になるよう祈る。

第11回のマイコンとの戦いは、2勝1敗3分けてY雄の2連勝。粘土で皿を作る。先週の大仏を砂箱に置き、砂を浴びせかけ祈る。砂が箱の外に飛び散り、かなり衝動的な感じを受ける。第12回は1勝4分けてY雄の3連勝。「ここでマイコンとの勝負は終わり。今度はThと」。大仏の役目が終わったので、箱庭『大仏の墓（前方後円墳）』を作る。大仏をバラバラにして、砂を浴びせかける。「また暴れ過ぎかな」。

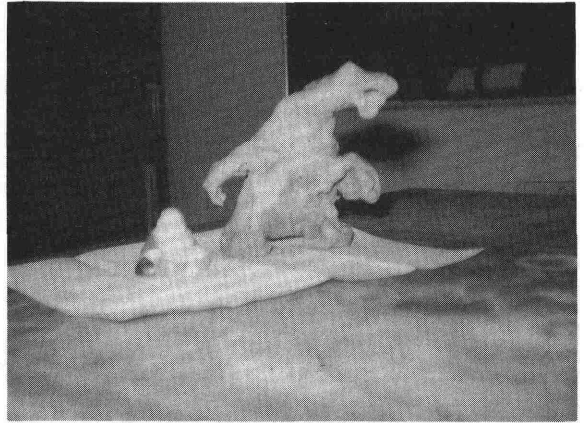


写真1 恐竜のような大仏（第10回）

【第13回～第16回】マイコンとの新しい

戦い3連戦。Y雄が自分でプログラム入力。「自分の力でやらなくては」。1勝4分けてY雄の勝利。「マイコンがかわいそうだから、新しい大仏（三柳奈二世）を作る。マイコンが勝つように拝んで」と言うが、「この大仏はY雄の言うことしか聞かない」と、自分が勝つように祈る。第14回のマイコンとの戦いは、2勝1敗2分け、3回戦も4勝0敗で3連勝。マイコンを慰めるものとして、口を大きく開いた怪物（女、オシッコ、ウンチをもらしている）を作る。サイン販売。Y雄のサイン『世界の人Y雄』（3500円）、Thのサイン（1000円）。箱庭：『3人（中国の女性、兵隊2人）のお墓。そのお墓から火山が噴火』。第15回の野球の話では、Y雄はピッチャー、Thは代打代走。マイコンとの戦いは2勝3分けて、通算5連勝。『Y雄世界一』のサインをする等、Y雄の自分に対する評価はかなり高くなってきている。第16回のマイコンとの戦いは1勝3分けて、Y雄の6連勝。マイコン（青柳借母根）は自殺。初めてThとゲームをし（4枚のパッチンで遊ぶ）、Y雄が勝つ。箱庭『マイコンの墓（古墳、中に四角の粘土）』（写真2）：供え物として4枚のパッチン。2代目マイコンは、三柳市子。Thの母親代理の役割もここで終了。

写生会では、大きな船を画用紙いっぱい描いた。修学旅行では、トイレも問題なかった。教室でおだちすぎ。勉強で妹と張り合っている。



写真2 マイコンの墓（第16回）

### (3) 箱庭での戦い (前哨戦) (第17回～第32回)

【第17回～第20回】ユキコンとマイコンとの戦い。3勝2分けでマイコン7連敗。マイコンを慰めるための箱庭『森の園』：植物だけの世界、を作る。第18回のバトル戦ではわざと間違えて、マイコン初勝利。本戦のベトナム戦はY雄の8連勝。箱庭『ジャングルで迷う人々』(写真3)：前回の続きで、虎、ライオン、馬、キリン、猿、ゴリラ、シマウマ、ラクダ、豹、豚、等の動物を置く。羊、3人の兵隊、バス、バトカー、救急車、先生等が迷っている。多くの人が迷い込み、ジャングルの中に町ができる。隣の町とは連絡が取れない。第19回からマイコンの名称を毎回変えて、Thと協力してプログラムを入力。箱庭：前回の続き。男が食料不足で死亡。木の下に埋め、お墓とする。赤ちゃんも迷う。砂を砂箱から飛ばしたり、勝手に砂箱の人形を片づけたりと、Thの言うことを聞こうとしない。Thの話に対するY雄の受け取り方が、あまりにも主観的(自分の思いこみが強い)な感じを受ける。マラソン大会で52人中45位、母親からは「ピリなんでしょ」と言われたと不満げである。



写真3 ジャングルで迷う人々(第18回)

【第21回～第24回】『鉱山町の発展』(未来の姿)：3つに地区に分かれていて、アイヌ人も住んでいるが、全員男。幼稚園児は裸で、寒くて、泣いて、オシッコをしている。泣き顔の絵を描く。第22回には箱庭『兵隊(7人)とアイヌ人(8人)の戦い』：順次1対1で戦わせ、アイヌ人が全滅。古墳に埋められ、葬式。黒板に戦死者の名前を書く。7歳以上のアイヌ人男性は、全員死亡。1年後、アイヌ人の血に日本人の血を入れて日本人になる。第24回には箱庭『墓、噴火』：墓を作り、Y雄とThの人形がお参りする(お互いが相手の人形を選ぶことにするが、Y雄は自分で選んでしまう)。お墓は火山でもあり、噴火して崩れてしまう。

【第25回～第27回】学芸会の内容を箱庭で表現(劇の内容とは違う)。『アイヌの村が食料不足で、白老に移住』→『陸地をつないで、海を渡る』→『輪西の浜の戦い：蛇、トカゲ、ワニ、鮫、亀を海にぶちまけ、アイヌ人を砂浜にぶちまける(動作が荒々しい)。屯田兵(5人)と戦い、アイヌ人(6人)は全滅』→『十勝岳の噴火で、列車が脱線転覆。アイヌ人(8人)全員死亡』の箱庭を作る。

【第28回～第30回】Y雄がサイコロを作り、Thとゲームをする。ルールはY雄が自分に都合がいいように、その場その場で作ったものである。12：11、14：13とY雄の連勝。3回戦は10：11でThの勝利。しかし、Y雄が勝手にルールを変えて、Thの負けを宣言する。Thが抗議すると、やっとThの勝ちにしてくる。「たまには負けを知るのも良いね」とは言うものの、サイコロゲームはここで終了。人間との戦いはまだ早すぎるようである。

【第31回～第32回】箱庭『アイヌ人の移住、噴火、地盤沈下』：紀元前に10万人のアイヌ人が中国から日本に移住。大雪山の噴火で4万人死亡。中国からさらに4万人が派遣されたが、途中陸地が沈下して日本海となり死亡。

#### (4) マイコンとの戦い Part 2 (第33回～第39回)

【第33回～第35回】マイコンとY雄が交互に問題を出す。4勝1敗でY雄の勝利。「マイコンもY雄も苦しい戦いをした」。第34回では1勝1敗だが、「最後にマイコンが勝ったのでマイコンの勝利」とマイコンに勝ちをゆずる。第35回は3勝0敗でY雄の勝ち。「面接もけじめを付けなければ」と時間通りに帰る。

【第36回～第39回】マイコンへの年賀状作成。新しいマイコンに文字を読ませる問題。3勝3敗、結局勝率を0割とする。Y雄の一方的ルールでY雄の勝利。Y雄の勝率は0.845、3代目のマイコン引退。4代目のマイコンの勝率は、0.850とY雄より高い(4代目との戦いはしていない)。第39回でマイコン Ver.7.1は成績が悪く自殺、マイコン Ver.7.2は癌で死亡。マイコン Ver.7.3とはかわいそうだから戦わないで話をする。「卒業なので」と、箱庭に大きな池を作る。「どうもありがとうございました」と、土下座のまねをして言う。

#### 第2期 箱庭での戦い (第40回～第79回) 1年4カ月 (表2)

この時期はさらに、(1) 見捨てられた世界 (第40回～第46回)、(2) 2つの世界 (第47回～第69回)、(3) 2つの世界の戦い (第70回～第79回) の3つに分けられる。

##### (1) 見捨てられた世界 (第41回～第46回)

【第40回～第43回】箱庭『ラッパ国、地震、新しい町』：10億の人口が、地震で1000人に減少するが、10年後20億人になりより大きな新しい町ができる。第41回には箱庭『カール国と臭いの地方、見捨てられた赤ちゃん』(写真4)：左辺中央に湖。右辺中央に男の赤ちゃん。赤ちゃんはオシッコ、ウンチを垂れ流し。赤ちゃんのいる所は『臭いの地方』と呼ばれて、誰も近寄らない。時々、食べ物を投げ入れる人がいる。第43回では箱庭『カントン国。見捨てられた国』：箱庭いっぱい大きな湖。左下に川。湖の中に島。小1の男女が、オシッコ、ウンチをもらし、叱られる。人々が国を出ていき、誰もいなくなってしまう。その後地滑りが起きて、全て埋もれてしまう。



写真4 カール国くさいの地方 (第41回)

【第44回～第46回】箱庭『ハバ市国。山が崩れる』：2つの山が崩れる。2億人が全滅するが、赤ちゃんが助かり、アメリカへ行く。箱庭『インペ国』：川で左右に分断される。橋はない。左側には両親が住み、右側には子ども3人。箱庭『小学校の運動会。オシッコ、ウンチをする4歳の女兒』：紅組の1年男子が、母親に服を脱がされて叩かれる。Y雄は学校で友達にからかわれ、椅子を持ち上げたところ、ガラスを割ってしまった。

##### (2) 2つの世界 (第47回～第69回)

【第47回～第51回】箱庭『ジリ国とポール共和国』(写真5)：左がジリ国、右の海の中にポール共和国。対称的な国で、海底トンネルでつながっている。ポール共和国が主役で、人口216万人。原爆で124万人に減るが、10日後に1400万人になる。平和だけど、貧しい。イヤラシイ人が多く、世界一の人口密度。ジリ国は、最初無人島ということであったが、人口16万人、イヤラシイ人は少なく、科学が発達している。平和で優しく、豊かである。臭いの地方の子どもも幸せになれる。



表2：治療経過（2期：箱庭での戦い）

月	回	4	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	11月	12月	1月	2月	3月	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79												
クライアントの様子							(アイズでガラスを割れ) (友だちからかかれの)	士下座	士下座	士下座	(成績は良い)	(自分の枠組で行動)	(友だちとケンカ)	ケンカ友だち二人	年賀状、友達五人	現クラスが好き																																					
マイコン								英語	好きな人は？	サヨナラ	英語	英語	未来のマイコン	コニチワ																																							
箱庭																																																					
庭																																																					
事																																																					
項																																																					
ブ																																																					
レ																																																					
イ																																																					



人口の変化もなく、人々は外の世界（ポール共和国のことも）を知らない。第50回の箱庭『バヤ国とガサ国。水の中の生き物』：中央に湖。湖を挟んで2つの国。ここに住んでいるのは人間ではない。えら呼吸もでき、水の中にいる。平和で喧嘩しない。対等な2つの国現れるが、お互い相手の存在をよく知らない。第51回には「心理学ってどんなことするの」〈心のことを色々考えるんだよ〉「心の中の嘘、ホント、イジメとかいろんな物が集まって、盛り上がっている」と砂を高く盛り、「そんなのを押し

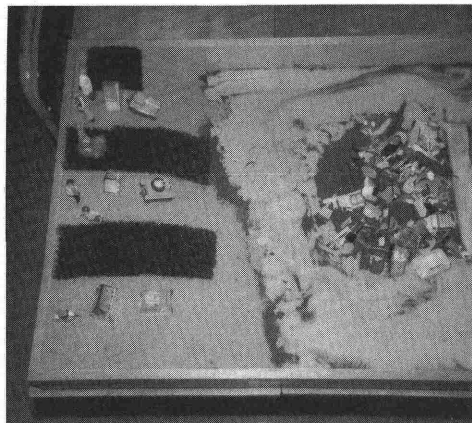


写真5 ポール共和国とジリ国（第48回）

さえつけて、なくしてしまうんだね。Th以上に、いや、Thより以下だけど、心理学をしている人が頑張っ、なくなればいいね」「心の中の色々なことの原因を知るためには、もっと掘らなくてはだめだね」と、より深い世界に行かなければならないこと、Thの覚悟を促すようなことを言う。

【父親の話】友達ができない。話をしている、途中で急に別な話に変えて、相手に通じなくともお構いなし。学校は休まない。

【第52回～第55回】マイコンも箱庭も黒板も使わないで、本当の話をすると言うが、言葉で表現するのが難しいらしく、最初飾り（飾りは面接ではないと考えている様子）として箱庭を作ると言う。箱庭『社会主義国（2つ）と資本主義国』：中央に湖。周囲を4つに分割。社会主義国は農業国で豊かである。資本主義国は貧しく、家もない。箱庭終了後、本当の話をする。「自分の心を知りたい。欲求不満になったことがある」「でも心のことを言葉で表現するのは難しい」。第53回に箱庭『両生類の世界。戦い』：平和な穏やかな世界に、サソリが侵入。ボスのカエルが、自分のウンチで戦う。サソリは自分の毒で死んでしまう。この世界では、汚い物としてのウンチが有効な武器になっている。動物レベルの戦いが行われたが、侵入者は退治されてしまう。第55回では、平和の話として平和のトピックの絵を描く。絵の中で、戦争反対、戦争賛成、を何度も書き換える。「アメリカとソビエトが戦ったら引き分け」「戦争しなければ一番良い。でも、そうなるかどうかは難しい」。2つの世界が戦うのかどうか、不安定な状態である。

【第56回～第57回】箱庭『スタジアム、地下』：「土台をしっかりしないと」と砂を固める。地上では野球、地下ではサッカー。箱庭『スタジアム島、地震』：中央に大きな島。4つに分割。スタジアムで戦いが行われるが、地震で島が崩れてしまう。箱庭『沖の鳥島、地下に秘密』：全て地下に隠してあり、秘密。核の冬で、湖の水を飲むと白血病になる。60人中10人死亡。50人は免疫ができて助かる。

【母親の話】よく喧嘩をしてくる。一方的にいじめられているのではなく、Y雄も向かっていっている。「相手が悪いんだから、あやまんない」と言っている。喧嘩友達も何人かいるらしい。親には何でも話してくれる。別に心配することはない。

【第58回～第61回】箱庭『土の家と掘り抜き井戸』。未来の話として、アメリカ、大韓民国、日本が合併して大韓民国に、ソ連とコメコンが合併してコメコン共和国になる。あり得ない話として、両手利きの人、成績の変化、日本共和国（地殻変動で沈下、隆起を繰り返す。人々も死と

再生を繰り返す)等話す。硬式テニスボールでキャッチボールを始める。Y雄が投手でThが捕手、スピードはあるが、コントロールが悪く、暴投が多い(第15回ではThは捕手にしてもらえなかった)。

【第62回～第65回】「こんなことしていてもダメだと思いますので、面接をします。これから、面接3割、プレイ7割」「ここに来ているのは友達を作れるようになるため。後2～3年かかるかもしれない」。親友はいないが喧嘩友達は2人いる。5人の友達に年賀状を出すと言う。しかし、次の回はすぐプレイの時間として、『瀬戸内海の家島の話』：子供2人(男女)がお漏らしして殺される。男の子が生き返り、別な女の子と新しい民族を作る。

【第66回～第69回】箱庭『北海南島、地殻変動、地下資源』：工業地帯で原子力発電所が爆発。島は1日に1回転する。砂を盛り上げては崩し、男の子が1人島でもみくちゃになっている。「こういう面接ができると、あと10回くらいかな」「まだ、半分以上あるかもしれない」。箱庭『21世紀の室蘭。第3次世界大戦、地下』：左上が海。海に向かって並べられた軍隊。無意識の衝動に対する防衛だろうか。箱庭『東エリ国と西エリ国。地下資源』：社会主義国で、中央の国境に銅鉱山と工業地帯がある。不思議な理科の先生の家は、ベルリンのように家を境に国境がひかれている。境界をどう設定するか、そこに戦いの生まれる原因があるようである。

### (3) 2つの世界の戦い(第70回～第79回)

【第70回～第75回】箱庭『女の子と男の子の戦い』：砂漠で中央に湖。左下に海。裸の女の子(5歳、外人)がウンチをして臭いと砂漠に捨てられる。地殻変動で砂に埋まる。裸の男の子(6歳)が助けるが、領土をめぐる戦争になる。15年後、戦争はなくなり女は貴婦人、男は鉱山で働いている。地殻変動はなくなったが、国境は毎日変わっている。Y雄とThの姓名を互いに入れ替えた名前をサインする。箱庭『資本主義国と社会主義国の戦い』：中央に大きな湖。湖の中に島。国境にある工業地帯で戦い。島が動く度に橋が壊れる。箱庭『島の中の湖。地震』：中央に湖。その中の島に湖がある。3つの領域に分かれるが、地震でつぶれてしまう。箱庭『本家と分家の戦い』：2つの町を地下鉄で結ぶ。箱庭『本家と分家の戦い。弥生時代』：分家は第1～第3まであり、本家と分家は地下鉄でつながっている。赤ちゃんのウンチで武器を作り、第2分家の勝利。話の内容が途中で変わり、混乱している。箱庭『A国とB国の戦い』(写真6)：B国の島にA国がやってきて、戦いとなる。結局真ん中に柵を作り、2つに分かれた状態で落ち着く。「国というのは南北朝に分かれて、その後発展していく」と言う。

【第76回～第79回】箱庭『弥生時代の島。天皇の城』：地下40階。島の沈下により、90%滅亡。箱庭『ハイ南島。5度の海沈』：島の住人は魚に変身する。箱庭『隆起サングの島』。火山の噴火で2つに分れる。  
[東アジア、東ヨーロッパ、日本] 陣営と  
[アメリカ、日本の一部] 陣営に分かれる。  
両陣営に立派な指導者が出て話し合い、お互いの良いところを取り入れる。アメリカとソビエトは戦わない。平和が一番。箱庭『天皇家、親王家(2つ)、地殻変動』：島の中央の火山が噴火。ある家族が、1日で島を元通りにする。



写真6 A国とB国(第75回)

### 第3期 Thとのゲームによる戦い(第80回~第103回)10カ月(表3)

この時期はThとのゲームが中心となる時期で、(1)キャッチボールの時期(第80回~第86回)。(2)アオヤシシリーズ(第87回~第97回)。(3)終結に向けて(第98回~第103回)の3つに分けられる。

#### (1)キャッチボールの時期(第80回~第86回)

キャッチボールは第58回から行われるようになったが、毎回のように行われるようになったのは第69回からである。あり得ない投げ方と言って、両手で投げたり、回転して投げたりと、また、スピードがコントロールされておらず、暴投が多い。

【第80回~第82回】『学校の話』：勉強のことやテストの成績について話す。『歴史の話』：昔は悪の力が強かったが、今は善の力が強い。日本もアイヌ人と日本人の連邦政府にすればよい。

『面接について』：「ここに来るのは来年の今頃まで。以前は目的があったけど、今は変わった」と面接の評価はあまり良くない。箱庭『友達増加のグラフ』(図1)：指で砂に描く。6年の時はいなかったけど、今はいる。ここに来たから変わったわけではない。最初の頃は母親が過保護だったと言う。キャッチボールは相変わらず暴投が多いが、Y雄が捕手になるなど、役割交代が見られた。

【第83回~86回】『学校の話』：学校祭や先生の話。『キャッチボール』：あり得ない話(両手投げ、両手打ち)が現実になった。初めてコントロールが良いボールを投げる。『ThとY雄の試合』：2-0でThの勝ち。以前と違って、あっさり勝たせてくれる。『将来の夢』：先生か、医者か、革命の大将になりたい。

#### (2)アオヤシシリーズ(第87回~第97回)

【第87回~第88回】『学校の話』：テストの成績の話。学力テストのことで親に叱られた。『アイヌ人の話』：アイヌ人を差別する気持ちがある。だから興味がある。『アオヤシリーグ』：青柳チーム対Y雄チームで野球の試合。1回戦は0-1でY雄チームの勝利。2回戦はThとY雄が交互に投手になる。1-1、ジャンケンでThの勝利。

【第89回~第97回】『第2期アオヤシシリーズ』：1回戦は1-1の引き分け。「青柳たおせーよ」の声援が入る。「これは青柳先生のことでなく、青柳チームのことを言っている」。2回戦はY雄のコントロールが悪く、3-1で青柳チームの勝ち。3回戦は、青柳は青勝柳チームにトレードされ、青勝柳チームとY雄チームの対戦。4-0で青勝柳チームの勝ち。4回戦はY雄投手の暴投で、3-0で青柳チームの勝ち。5回戦は1-1、決定戦のルールをThが決める。初めてThのルールで行う。2-1で青柳チームの勝利。6回戦はY雄投手のコントロールがよく、2-1でY雄チームの勝ち。「Thはいつも勝っていたから、たまにはいいね」。7回戦は、2-1でThの勝ち。8回戦は別なルールで8-6でThの勝ち。Thの6勝1敗1分けであるが、Y雄は自分勝手なルールを作ることなく、平等なルールで試合が行われた。6回戦からY雄のコントロールが良くなっている。

箱庭『封建社会の島国』：左上に城、右下に農民、兵士の家。「封建社会は許せない」。Y雄は母親に対し、「僕を人間としてみていない(成績が良くて運動もできる人が人間)。障害児と思っている。馬鹿にしている」と批判的であるが、「お母さんは、甘やかすけど恐ろしい人」なので母親の言うことに従ってしまうと言う。箱庭『1200年続いた王朝』：島、中央に宮殿、海で5~6歳の裸の子供が泳いでいる。箱庭『1100年続いた王国の崩壊』：島、中央に火山、城。火山が噴火し、日本兵が攻めてきて、崩壊する。

表3：治療経過（3期：Thとのゲームによる戦い）

回	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月														
月	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	
クライアントの様子						面接は満足している	母への不満逆らえない	年賀状4人以上	ここは楽しい	面接はもうすぐ終る	面接は6月で終了まじしい														
マイコン																									
箱庭																									
庭事																									
項目																									
プレイ																									

図1 友達増加のグラフ (Thの再現図)

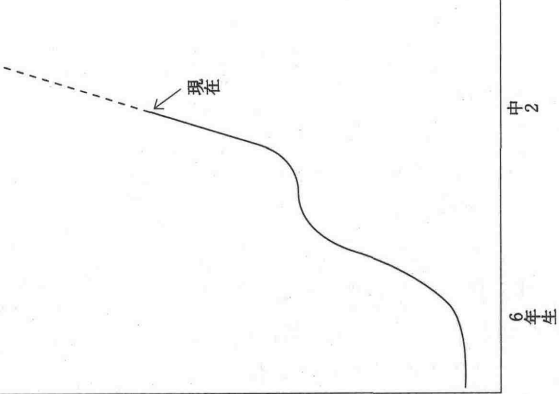
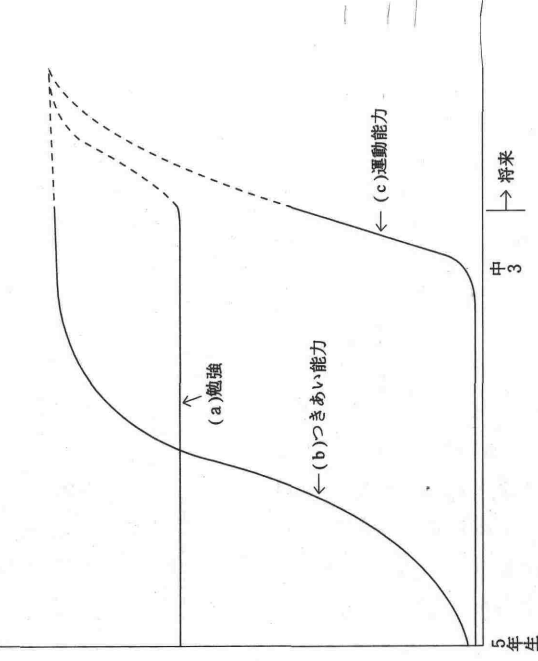


図2 現在までの変化のグラフ (3権分立) (Thの再現図)



地図帳を見るが多くなる。ドイツは南北朝時代。2つに分かれていると、独自の文化ができて、統一された時文化が発展する、と2つに分かれていることを積極的に評価している。面接は来年の9月まで。

### (3) 終結に向けて (第98回～第103回)

別なルールでアオヤシリーズ再開。1アウトごとに投手が変わる。青柳チームにY雄チームの投手が入る (投手はY雄)。1回戦は2-2、決定戦で青柳チームの勝利。2回戦は5-0でThの勝ち。3回戦は1-1、決定戦も引き分け。4回戦は途中で時間切れ。5回戦も一時預かりとなり、最終戦に続く。4-2で青柳チームの勝利。青柳投手は2勝2敗1S。Y雄投手も2勝2敗。

第99回に面接をやめる時期について話し合う。第101回に今までの様子をグラフにする。『変化のグラフ』(図2) : (a) 勉強は、同じ状態。(b) つきあい能力は一番伸びた。(c) 運動能力も、中3になってから急速に伸びている。イタリアは5年で革命を成し遂げ、先進国になった。ある会社は、女社長の力で革命が成し遂げられた (会長は男)。自分は男だから、もっとできる。自分にイタリア革命が起こっている。勉強も運動もできるようになって、高校に入ったらみんなを指導できるようにする。

最終回は母親と来室。母親の話では、今は問題なくうまく行っているとのこと。マラソン大会も110人中70番だった。「初回と同じく3人だが、今日は帰りは1人で帰る。そこが違う」。箱庭『お墓』(写真7) : 終了記念として、表にY雄のサイン、裏にThのサインをした用紙を砂に埋め、お墓とする。その上にスコップを持った人形を置く。「今後も相談相手になって欲しい」。階段まで見送り、「Y雄の住所を紙に書いておいてください。先生の住所は〇〇ですね」と別れる。

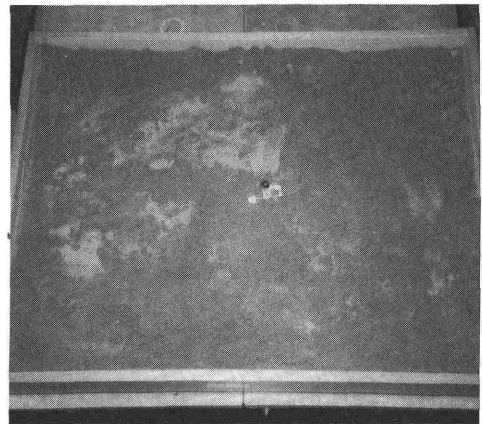


写真7 サインを埋めた墓 (第103回)

## IV 考 察

河合が述べているように、箱庭療法での統合の過程において「戦い」の主題が生じることは多い。<sup>2)</sup> この時、最初は一方的な戦いであったものが、次第に均衡した勢力の戦いに変化していくことも多く、均衡した勢力の戦いの場合は、相当程度の高い統合性を示しているものと考えられている。本事例では戦いの表現が箱庭だけにとどまらず、パソコンとの戦い、Thとのゲームによる戦いと変化しており、なぜ異なる表現方法をとる必要があったのか、表現方法の違いによる戦いの質の違いはあるのかについて、考察していきたい。

### 第1期・マイコン (コンピュータ) との戦い

Y雄は最初からコンピュータに興味を示し、自然な形でコンピュータを使用するようになった。伊藤は、コンピュータ等の現代的ハードウェアの治療的意義として、「心の「窓」として」、「有感感を与えるものとして」、「対人関係への橋渡しとして」、「自我境界を補強するものとして」、

等の意義を述べている。<sup>1)</sup> 人との関係をうまく取ることのできないY雄にとって、いつも正確に同じ反応を返してくれるコンピュータは、関係の取りやすい相手といえるだろう。さらに戦いのルールもY雄が自分に有利なルールを作っており、自分で自由に勝敗をコントロールできるようになっている。まさに「いつもY雄が勝つようになっている」のである。現実のY雄は運動面では常に挫折感を味わい、友達との関係もうまく行かず、相手にされないことが多かったものと思われる。そのY雄にとって、人間（Y雄の思い通りにならない）ほど複雑ではなく、Y雄の行動に対して何らかの反応（Y雄が予想できる決まりきった反応）を返してくれるコンピュータは、まさに適切な対戦相手である。Y雄はこの戦いの中で、自分の有能感を高めていったものと思われる。

戦う相手のマイコンには、青柳借母根という名前が付けられている。これはThであると同時に、母親のイメージも投影されている。また粘土で作った大仏にも「三柳奈二世（青柳三千世）」と女性の名前を付けている。大きな口を開け、恐竜の姿をしながら、同時にY雄の戦いを応援する存在でもある。母性の暖かさと恐さの両面性を表しているものと思われる。Thに対しても、戦う相手でもあるし、Y雄を応援する大仏でもあるしと2重の相反する投影をしている。Thの評価も、「Thは優しい。何でもしてくれる？」と甘えや要求を表現する一方、「Thはお母さんに話しそうだ」相反する評価をしている。対人関係の不安定さを表しているともいえるし、物事の両面を適切に表現しているともいえる。この時期の箱庭では、『墓』、『噴火』等の表現が多く、面接場面でもかなり衝動的な行動が見られた。

青柳借母根の自殺によりマイコンとの戦いは一段落し、Thとの関係は安定した治療関係に入り、箱庭での戦いが中心となる。しかし、ここでの戦いは全てアイヌ人（Y雄の劣等な部分を意味するものと思われる）の全滅となっており、まだ内界での戦いをするだけの自我の強さが育っていないものと思われる。と同時に『ジャングルで迷う人々』で表現されているように、Thとの関係もそれほど安定したものではなく、Y雄の内界の戦いを支える治療関係になっていなかったものと思われる。第28回からサイコロゲームが行われるが、この時もY雄の自分勝手なルールにThが文句を言ったために3回で終了している。

第33回から再度マイコンとの戦いが行われるが、マイコンに名前を付けることもなく、単なるマイコンとの戦いになっている。また、マイコンに勝たせてやることもあり、一方的なY雄の勝利ではなく、Y雄の有能感の増大とともにゆとりが出てきている。

## 第2期 箱庭での戦い

この時期の箱庭では、『地震』、『地殻変動』が頻繁に繰り返される。第1期と違い、内界の基盤の変動が起こっていることを示している。第40回で表現されているように、『地震の後に以前よりも発展した新しい町ができる』可能性は示されているが、その道りは長いものであった。

第1期のアイヌ人で表現された劣等な部分は、『臭いの地方の見捨てられた赤ちゃん』として表現される。それが『見捨てられた国』になり、山崩れでも赤ちゃんは死ぬことなく生き残る。第47回では対称的な2つの国になり、対等な関係を持つ存在になる。そしてこの2つの国は海底トンネルで繋がっているというように、内界でのつながりを示唆している。また、第53回のサンリとの戦いでは、今まで汚いものとしていたウンチが武器として使われ、価値あるものに変化している。この頃から、『トンネル』、『地下』、『地下資源』の表現が見られ、言葉でも、「心の原因を知る為には、もっと掘らなくては」とより深い内界の問題を取り上げる必要性を述べている。しかし、なかなか次の段階に進展せず、あり得ない話や死と再生の話が繰り返される。



第70回から人間の戦いが始まる。『男の子と女の子の戦い』、『社会主義と資本主義の戦い』、『本家と分家の戦い』が行われる。この戦いに入ると同時に、ThとY雄の姓名を入れ替えたサインを書く。2人が1体となって臨まなければならない程Y雄にとってはたいへんな戦いであったと思われる。第75回の『A国とB国との戦い』では、1つの島がA国とB国に2分された形で戦争が終わっている。そして「国は南北朝に別れて、その後発展していく」と、2つに別れている状態を積極的に評価している。第78回には2つの陣営はもはや戦うこともなく、話し合いでお互いの良い点を取り入れことになる。今まで劣等だと思われていたものの中に価値あるものを見だし、自分にあるものとして受け入れることができたのである。

### 第3期 Thとのゲームによる戦い

第58回から断続的に続いていたキャッチボールが、第80回あたりから面接の中心になってくる。最初は回転しながら投げたり、両手投げをしたり、スピードが速いだけに暴投も多く、ボールが窓ガラスを直撃することもあった。しかし、次第にコントロールが良くなり、スピードも適切なものとなり、自分の体を適切にコントロールできるようになっていった。「運動神経が鈍い」と皆から思われているY雄にとっては、大きな進歩である。そしてThとのゲームによる戦いが始まるのだが、今回は常に平等なルールのもとにゲームが行われた。Thの勝ちが多いのであるが、Y雄は気にすることもない。Y雄の自分の能力に対する自信と、それにとまなう対人関係におけるゆとりや葛藤に耐える力の向上を意味しているものと思われる。それでも負けが込んでくると、Y雄投手をThのチームにトレードし勝ち投手になるなど、葛藤状態を適切に処理する柔軟性も見せている。人との関係を適切に処理できる自信がついたものと思われる。第101回の変化のグラフでは、つきあい能力が一番伸びている。

2つの世界の協調関係は、内界との関係においても、また外界との関係においても、うまくいっているようである。Y雄が地図や国境、境界に拘るのも、同じことであろう。しかし、これは戦いが終了したことを意味するのではなく、東山の言うように、「棲み分け」を獲得したにすぎない。<sup>3)</sup> その「棲み分け」のバランスが崩れた時、Y雄は再び戦いの場に臨まなければならないだろう。Y雄について言えば、第90回で表現されているように、母親に対する感情は統合されないまま残っている。いずれこの問題が表面化し、新たな戦いが始まることになる。

## V おわりに

今回は「戦い」の質的違いについて考察した。人との関係がうまく取れないY雄にとって、直接人間とのゲームによる戦いに入ることは難しいことであった。人間とは違うコンピュータ（擬人化しているが）と戦うことで（プログラムを自分で作ることも含めて）、Y雄は有能感を高めることができたのである。いわば自己の有能感を獲得する為の戦い、次の内的戦いをなしとげる力を獲得する為の戦いといえる。そして自分の力と、Thとの治療関係を確かめながら、次の段階である深い内的戦いに入っていったのである。第1期の方が弱すぎて戦いにならない状態から、弱い方が力をつけてきて対等な関係になり戦いが開始される。何度も地殻変動を繰り返しながら、ついに2つの世界はお互いの存在を認め共に生きていく関係になったのである。そして、最後に現実世界と適応していく為の戦いとして、直接人間とのゲームによる戦いに入る。ここではさらに自分のからだをコントロールするという側面も訓練される。現実適応の面でも、ゲームには負けるが、その葛藤をうまく処理する方法を見つけみごと乗り切るのである。